

# 道

2018年10月1日



小田川

先日、岡山県社会福祉士会とケアマネ会が実施する第3次真備地区被災全戸調査に参加した。僕が担当したのはほとんどが二階まで浸水した区域で、水没して無惨な姿になった家々に人の影はなかった。▼健治さん・有子さん夫妻（仮名）の家は一階天井まで浸水した。現在は自宅から一五キロメートルほど離れた街中のアパート（みなし仮設住宅）に住む。その二階に上がる階段は八〇歳を超えた一人にはきつい。夫婦で四年前に建てた自宅の一階は、今、柱と外壁だけになっており、来年の春に改築した新しい家に戻るのを夢見て、肩寄せ合うように暮らしている。▼アパートに移ってすぐに健治さんが熱中症で倒れる。さらにその一週間後、朝の散歩に出た健治さんが戻ってこず警察に捜索願が出された。道に迷い熱中症で病院に救急搬送されていたことが後で分かる。このことがあって、買い物など外には必ず夫婦連れ添って出る。▼被災を機に夫婦の間に変化が生まれた。以前、二人は別々の部屋に寝起きし、ただ同じ家に住んでいるだけ、家庭内別居のようだったと振り返る。それが今は狭いアパートの同じ部屋に布団を並べる。夫婦がお互いの存在を大切に思うようになった。有子さんは「私にはおじいさんがおらんといけんし、おじいさんにも私がおらんといけん」としみじみ語る。▼「二人、同じ布団に入ることはないの?」と聞いてみた。「なにゆう言よん、そげんこと、ぜったい、ねえ」とのご返事。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

090-5366-1497

michi-care@outlook.jp

<https://michi-care.jimdo.com/>

林 道 也



遠田 涼の木